

H25年度秋田大学研究者海外派遣事業により
実施した研究・教育活動の成果報告について

平成 27年 1月 23日

所属・職名：秋田大学大学院整形外科 助教
氏 名：石川慶紀

派遣先機関名： ウプサラ大学 (国名：スウェーデン)

派遣期間： 平成 25年 4月 1日～9月 30日

研究課題・目的： 関節リウマチにおける脊椎病変の病態の解明
脊椎手術，特に頸椎手術の研修

□研究成果（列記願います）

・論文

Yoshinori Ishikawa, Naohisa Miyakoshi, Michio Hongo, Yuji Kasukawa, Yoichi Shimada
Surgical treatment for thoracosacral concomitant spinal epidural and subdural
abscess: a case report Eur Orthop Traumatol (2014) 5:383-386

Dysphagia after posterior spinal fixation 作成 投稿予定

頸椎手術に関して学んだピットフォールに付き作成中

・学会発表

国際学会

Relationships among cervical alignment, flexibility, range of motion, myelopathy,
and quality of life, CSRS AP (Cervical spine research society Asia Pacific), 2014

CSRS AP 2015, CSRS ES 2015 においても 発表予定

Does muscular strain have relationships with spinal alignment, mobility, shoulder
stiffness, and neck pain?

・その他

国内学会

脊柱・下肢のアライメントと可動性が QOL、転倒バランスに与える影響 第 43 回日本脊椎
脊髄病学会発表 2014

80 歳以上の高齢者に対する胸腰椎固定術 第 43 回日本脊椎脊髄病学会学術集会発表 2014

骨粗鬆症性椎体骨折由来の脊柱変形に対する術式選択と治療成績 第 44 回日本脊椎脊髄病

学会学術集会 採択発表予定 2015

80歳以上の高齢者に対する脊椎固定術後の活動性と生命予後(中長期成績) 第44回日本脊椎脊髄病学会学術集会 採択発表予定 2015

□教育活動等(列記願います)

大学病院当科において、毎週、英語抄読会カンファレンスでの英語 discussion

□海外派遣事業中の教育・研究活動が、帰国後の研究等の活動にどのように反映されたかを概括ください。

私のホストであった、ウプサラ大学のクラエス オレルード教授は世界的に有名な頸椎手術の専門家であり、かつ、国際学会 CSRS (cervical spine research society) の主要 member でもあり、European section の会長も務められている。留学で得た知識と経験をもとに、大学病院で行っている日常診療や手術に生かし、頸椎手術を執刀させていただき、研鑽を積んでいる。今後脊椎を志す当大学後輩への手術指導とともに、上記国際学会にも積極的に若手医師とともに参加することで、論文を作製していきたいと考えている。